

令和5年度「実践者養成コースの合同授業」を紹介します。

大学院実践者養成コースでは、公衆衛生看護学と助産学との合同授業を行っています。乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援を学ぶために、社会福祉法人かがわ総合リハビリテーション事業団の作業療法士 大野香織先生を講師に、講義と演習を行っています。

演習では、新生児のモデル人形を使いながら新生児の発達特徴と観察のポイントを学びます。また、乳幼児の成長・発達の計測・観察の技術だけでなく、実際に乳幼児の発達支援や養育者の支援に携わっている大野先生から、保健師・助産師が乳幼児の発達特性や母子関係を理解した上で支援を行う重要性について学ぶことができます。

(実践者養成コース公衆衛生看護学：辻よしみ、佐々木純子、横溝珠実、藤村保志花、植原千明)



新生児モデル人形を使って成長・発達を観察している様子

